

学力とは何かを知り、学習の3段階理論と読解力を身に着け、
学校成績向上と第一希望校合格を果たそう(1)

開倫塾

塾長 林 明夫

Q1：学校成績を向上させ、第一希望校合格を果たすためにはどうしたらよいのですか。教えてください。

A：学力とは何かを知り、学習方法と読解力を身に着けることです。

Q2：それでは、一つずつお聞きします。学力とは何ですか。学力の意味、定義を教えてください。

A：「学力」とは、「主体的に学ぶ力」です。「学力」の意味は「主体的に学ぶ力」です。「学力」とは「主体的に学ぶ力」であると、「定義」いたします。

Q3：主体的に学ぶ力とは何ですか。

A：(1)他人からいわれなくても、自分から進んで学ぶことができることです。

(2)人から勉強しなさいといわれ、いやいや机に向かったのでは、学校成績は向上せず、第一希望校に合格を果たすことは極めて困難だからです。

(3)すべての勉強は、自分から進んで、主体的に行って初めて成果が出ます。

(4)自分から進んで、主体的に学ぶことができるのは、大切な力、能力です。ですから、「主体的に学ぶ力」というのです。

(5)主体的に学ぶためには、自分は何のために学ぶのか、学ぶ目的をしっかりと自覚する必要があります。

Q4：それではお聞きします。人は何のために学ぶのですか。

A：私は、よく生きるためだと考えます。よく生きるとは何か。自分の可能性を生かす、他人や社会のお役に立つなど、よく生きるとは何かは人によって異なります。是非、自分の力で自分にとってよく生きるとは何かを真剣に考え、その答えを見つけてください。そして、よく生きるために最も役に立つのが、「主体的に学ぶ力」を身に着けることだと私は考えます。

Q5：主体的に学ぶ力という意味での学力が身に着くと、どうなるのですか。

A：(1)「多様な選択肢のある人生を歩むこと」ができます。

①例えば、学校成績がよく、3大検定に合格し、模擬試験の偏差値が高ければ、入学試験を受けて合格することができる学校が増え、いろいろな学校に進学できます。人生の選択肢が増えます。

②ところが、「主体的に学ぶ力」が身に着いていない場合は、合格して進学できる学校は限



られます。人生の選択肢が狭まります。

③自分から進んで学ぶ力、「主体的に学ぶ力」が身に着いていれば、どのような試験にも合格を果たすことができます。また、新しいことも自分の力で学び、身に着けることができます。このような意味で、「多様な選択肢のある人生を歩む」ことができます。

(2)「正常に機能する社会の形成に役立つこと」ができます。

①一人ひとは社会を形づくる大切なメンバーです。社会の一人ひとりのメンバーが、社会の課題解決に向けて、自分から進んで主体的に学ぶ力を身に着ければ、社会は正常に機能するようになります。

②社会の課題を放置し、なるようにしかならないと考える人が多ければ多いほど、社会は滅亡に向かいます。社会や国家は生き物と同じです。よく世話をし、また、力を付けていかないとすぐにガタガタとなり、あっという間に滅んでしまいます。ですから、社会の一人ひとりのメンバーが自分から進んで主体的に学ぶことが大切です。

Q 6 : 「学習の3段階理論」とは何ですか。

A : (1)1979 年に開倫塾を創業以来、塾生や保護者、地域社会の皆様が学習面で一番困っているのは、効果の上がる学習方法がわからないことだと知り、38 年間かけてコツコツとまとめ上げているのが「学習の3段階理論」です。

(2)「学習」を「理解」「定着」「応用」の「3段階」に分け、「3つの段階」それぞれにふさわしい効果の上がる学習方法をお示ししたのが、「学習の3段階理論」です。

(3)この「学習の3段階理論」は、小学校、中学校、高校だけではなく、大学、短期大学、専門学校、専修学校、大学院、社会に出てからの様々な職場での学習、資格・検定試験、企業内教育、公民館やコミュニティカレッジ、生涯にわたっての学習など、皆様の人生にとってありとあらゆる学習の場面で活用できます。

(4)たとえ短期間であっても、開倫塾に在籍し、開倫塾で学んでいる皆様は「開倫塾の塾生」です。そこで、「開倫塾の塾生」である間に「学習の3段階理論」を正確に身に着け、「多様な選択肢のある人生を歩む」社会のメンバーとして「正常に機能する社会の形成に貢献すること」を強く要望いたします。

Q 7 : 第1番目の「理解」とは何ですか。

A : (1)「理解」とは、「うんなるほどとよくわかること、腑に落ちること、納得すること」です。「そうか、そうだったのか」と「よくわかること」が、「理解」です。

(2)この「理解」は、学校や開倫塾などでの先生からの授業で実現されます。

Q 8 : 学校や開倫塾の先生方の授業で「理解」する場合のポイントは何ですか。

A : (1)「遅刻・欠席・早退をしないこと」です。先生がいくら熱心に授業をなさっても、皆様が教室に存在しなければ「理解」はできないからです。教室には授業の5分前に到着し、静かに息を整えましょう。

*一番よいのは、5分以上前に到着して、それまでに学んだ教科書やノート、その日に学ぶ教科書や教材に目を通すことです。座席も先生から一番近いところを確保する。これが、日本



でもアメリカでも、最優秀の大学生の授業の受け方です。成績のよくない大学生ほど、時間ギリギリに到着して教室の後ろに着席し、単位を落として留年・退学するのも世界共通です。

*授業中に必要なことがノートに取れること、授業ノートを活用できることは大切な能力です。

(2)「おしゃべり（私語）、スマホ、居眠りなど、授業以外のことをしないこと」です。授業以外のことをしていたのでは、授業に出席していても「理解」はできないからです。

(3)「手を机の上に置き、姿勢を正し、先生目や口元を見て、一語一句を聞き漏らさないように熱心に授業に参加すること。そして、必要なことはすべてメモを取ること」です。

*授業中に、必要なことがノートに取れること。授業後は、ノートを整理すること。ノートを繰り返し学び直すこと。ノートを充実させ、自分専用の教材、「My Notebook」を作ること。

これらは、極めて大切な「能力」です。このノートの取り方・活用の仕方は、社会に出てからも役に立ちます。一生役に立ちます。



Q 9 : 「理解」の場面は授業以外にもありますか。

A : 「予習」と「復習」があります。

Q10 : 予習での「理解」のポイントは何ですか。

A : 「予習は何のために行うのか」、「予習」の意味を明確に「定義」することです。

(1)開倫塾では、「予習は、よくわからないこと、つまり、よく理解できないことをはっきりさせてから授業に臨むために行うものである」と「定義」しています。

(2)具体的には、「予習」をしていて、意味のよくわからないことばがあったら、「気持ちが悪い」と考え、「辞書」や「百科事典」、各教科の「用語集」、学年別や教科別の「参考書」などを用いて調べること。「インターネット」で検索することです。

(3)「辞書」などを用いて調べたことは、「意味調べノート」などに書き写すこと。その「意味調べノート」は折に触れて繰り返し読み直し、すべて覚えることです。

(4)「意味調べ」に続いて、「予習」で大切なのは、教科書や教材のすべてに一字一句丁寧に目を通し、よく理解できないところ、どこがよくわからないかをはっきりさせることです。

(5)さらに大切なのは、教科書の例題や練習問題、実力問題はもとより、学校や開倫塾で用いている問題集のすべての問題を、全問自分の力でノートに解いてみることです。よくわからない問題は、授業までに自分の力で調べること。友達とも話し合ってみましょう。それでもわからない問題は何かをはっきりさせてから臨むのが、「授業」です。

(6)このようにして「予習」をし、よく「理解」できたらどうするか。教科書や教材、問題集を「すらすらとよく読めるようになるまで声を出して読む」「声を出しながら読み、大切なことは覚える」ことです。これを「音読練習」といいます。英語はもちろん、国語や社会、理科、数学までも、「予習」をしてよく「理解」できたことは、授業時間までに「音読練習」をして、「すらすらとよく読める」までにする。よく読めるようになったら、すべて覚える。これを「暗唱(あんしょう)」といいますが、すべて「暗唱」してから「授業」に臨む、これが「予習」の神髄(しんずい)です。

(7)さらに、「書き取り練習」を行う。「予習」をしていてよく書けない語句があったら、正確に書けるようになるまで「書き取り練習」を繰り返すことです。

(8)1教科でも多く、このような「手順」での「予習」に挑戦しましょう。

(9)この「予習」の仕方も、大学や大学院に進学したり、社会に出て仕事や様々な活動をしたりするとき役に立ちます。

Q11：復習での「理解」のポイントは何ですか。

- A：(1)学校や開倫塾での授業が終わったら、できればその日のうちに、授業ノートや教科書、教材、問題集をもう一度「じっくり読み直す」こと。どのような内容であったかを一つ一つ思い出し、考えることです。例題や問題はすべて解き直すことが、「理解」には欠かせません。
- (2)このようにして「復習」をし、よく「理解」できないことがあったらどうするか。「辞書」や「用語集」、「百科事典」、「参考書」、「インターネット」などで調べることが欠かせません。調べた内容は、すべてノートに書き写し、そのノートを繰り返し読み直してすべて覚えましょう。
- (3)この「復習」の仕方も、大学や大学院に進学したり、社会で仕事や様々な活動をしたりするとき役に立ちます。

Q12：このような予習と復習はどこで行えばよいのですか。自分の家には、十分な辞書や用語集、百科事典、参考書、インターネットなどありません。

- A：(1)素晴らしいご質問です。よくお考えになれば答えは簡単、「図書館」です。
- (2)「学校の図書館」や「地域の図書館」は、皆様がよくわからないことを調べるために存在するものです。
- (3)もちろん、御自宅で教科書や教材、問題集やノートを用いて勉強することは大切です。しかし、教科書や参考書、問題集を勉強していて、よくわからないことがあったら、もっと深く調べるのに一番適しているのは「図書館」です。
- (4)「図書館」には、辞書や百科事典、各教科の用語集や参考書、インターネットなどがそろっていて、授業の「予習」や「復習」をしていて理解できないところを調べることができます。
- (5)どのように調べたらよいかわからないときの相談に乗ってくれるのが、「図書館司書」の先生です。大きな図書館には「学術専門員」もいます。遠慮しないで何でも相談してください。
- (6)「図書館」を十分に使いこなすには、1日も早く図書館の使い方を身に付け、自分の行きつけの場とすることが大切です。
- (7)「学校の図書館」には毎日行くこと、「地域の図書館」には週に1回以上行くことをお勧めします。
- (8)多くの大学では、地域の人々に「大学図書館」を開放しています。是非、近くの大学図書館にも一度出掛けて、大学図書館でも勉強してみてください。開倫塾の塾生の皆様の大多数は将来大学などに進学なさいますので、今のうちから大学図書館にも慣れておくことをお勧めします。



Q13：第2番目の「定着」とは何ですか。

A：(1)よく「理解」できた内容を「身に着けること」です。

(2)よく「理解」できたことも、「身に着ける」ことを怠ると、知識があやふやなままです。それではテストでよい点数が取れるはずもなく、「学校成績向上」や「第一希望校合格」を実現することができません。

(3)「理解」できたことはすべて「定着」させることが大事です。

Q14：「定着」のためには、何をすればよいのですか。

A：開倫塾では、「定着のための3大練習」、つまり、「3つの練習」を奨励しています。

(1)まず第1は、「音読練習」です。学校や開倫塾の教科書や教材、問題集、授業ノートを声を出して「スラスラとよく読めるまで読む練習をすること」、できれば「何も見ないでスラスラとよくいえるようになるまでにすること」。

(2)第2は、「書き取り練習」です。よく「理解」した内容につき、書けなそうな語句を、「書き順」も含めて、「楷書(教科書の書体)」で正確に書けるようになるまで、「書く練習」をすること。

*英語は、「ブロック体」だけではなく、「筆記体」でも書けるように「書き取り練習」をすること。筆記体の書き取り練習をすると、筆記体で書かれた文章を読むことができます。また、筆記体でサインをすることもできます。ブロック体でのサインは、普通考えられません。

(3)第3は、「計算・問題練習」(まん中の「・」は「ポチ」と読んでくださいね)です。なぜそのような解答になるかがよく「理解」できた計算や問題は、「見た瞬間に条件反射で解答できるまでにすること」。

*例えば、3かける6が、なぜ18になるかがよく「理解」できたら、 3×6 という計算問題を見たら、条件反射で18という答えが出てくるまで、繰り返し練習すること。これが「計算・問題練習」です。

(4)「練習は不可能を可能にする」という、慶應義塾の小泉信三先生の教えがあります。

「定着のための3大練習は不可能を可能にする。学校成績向上と第一希望校合格を実現する」と、開倫塾では考えます。

Q15：第3番目の「応用」とは何ですか。

A：「理解」「定着」したことを用いて、

(1)「学校の定期テストで満点が取れること」

(2)「入学試験や資格試験などのテストで合格点が取れること」

(3)「社会で役立てることができること」

この3つが「応用」の内容です。



Q16：学校の定期テストで満点を取るためにはどうしたらよいのですか。

A：(1)学校の教科書、プリントを含む教材、問題集、授業ノート

(2)これらを、テスト範囲についてスミからスミまで十分に「理解」したうえで、「定着のた

めの3大練習」を繰り返して、正確に「定着」させる、身に着けること。

(3)つまり、十分に「理解」したうえで「スミからスミまですべて覚える」、「丸暗記する」ことです。

(4)「定着のための3大練習」が最も役に立つのが、「定期テスト対策」です。

(5)試験勉強で大切なのは、次から次へと新しい本や内容を勉強することではありません。これぞと決めた教材や問題集、自分で作ったノートを繰り返し学習し、「スミからスミまで覚える」ことです。何回勉強したかという「回数」が大切です。偏差値を1上げたければ1回、10上げたければ10回、20上げたければ20回学習しましょう。これが受験勉強の真髄です。

Q17：入学試験、検定試験、国家試験、採用試験などで合格点を取るにはどうしたらよいのですか。

A：(1)各試験で過去に出題された問題（これを、「過去問題」、省略して「過去問」と呼びます）を最低でも5年分、できれば10年から15年分を、5～6回やり直すこと。

(2)「過去問」をやりながら、間違えた問題をチェックして、「間違いノート」を作り、このノートを繰り返し学び直すこと。

(3)「過去問」をやりながら、大切なことをまとめる「まとめノート」を作ってこのノートも繰り返し学び直すこと。

(4)何回か解いた「過去問」の「問題文」や「設問」、「選択肢」、「解答・解説」などのすべてを、教科書と同じ手順を踏んで、「理解のための辞書調べ」や「定着のための3大練習」を根気強く何回も行うことを強くお勧めします。

Q18：読解力を身に着けるとはどのようなことですか。

A：(1)学校の教科書や教材、問題集をはじめ、定期テストや模擬試験、入学試験などの様々な試験はすべて、かなり長いまとまりのある「ことば」で書かれています。そこで、大量の語句や文章の意味を正確に読み解く力、「読解力」が求められます。

(2)ですから、「読解力」を身に着けることを怠ると、教科書や試験問題を読んでも意味がわからず、「学校成績向上」や「第一希望校合格」は実現しません。また、試験時間内に問題をすべて解き終えることができません。

(3)「読解力」を身に着けるのに一番よい方法は、「辞書」の活用と「新聞」を毎日読むこと、さらには、「読書」を毎日行うことです。

(4)意味がよくわからないことばがあったら「気持ちが悪い」と思い、「辞書」で意味を調べる。調べた意味は必ず「意味調べノート」に書き写すこと。「意味調べノート」は、毎日1ページから読むこと。これで語彙力が飛躍的に増強されます。ことばは力、語彙力は力です。

(5)新聞を毎日読むと、自分で考える力と批判的思考能力が身に着きます。

(6)読書に励むと、思慮深さや自分自身を振り返る力、省察力が身に着きます。

(7)「辞書」の活用、「新聞」を読むこと、「読書」に励むのに最も適しているのは、学校や地域の「図書館」です。ここでも「図書館」の活用をお勧めいたします。



2017年5月12日（金）

（宇都宮大学大学院工学研究所客員教授）